

2017年度 第2回 STARS セミナー実施報告

概 要

- 実施日：2017年7月8日
- 場 所：株式会社資生堂汐留オフィス&ロイヤルパーク汐留
- 参加人数：71名
- 主 催：特定非営利活動法人 NPO STARS
- 後 援：公益財団法人 資生堂社会福祉事業財団



□ I「アセスメントとケースカンファレンス」(子どもの虹情報研修センター研修課長 中垣真通氏)

愛着形成過程やトラウマ反応など社会的養護下にある子どもたちの持つ心理的特徴に関する解説に続き、アセスメントのねらいとその方法について解説いただいた。さらに、他機関や他職種によるチームアプローチに有効な手法としてのケースカンファレンスへの取り組みについて、チームビルディングやチームワークの視点から講義をいただいた。社会的養護現場での実践をお持ちの先生ならではのご経験をときにユーモアを交えてお話しいただいた。理論に偏らず、実践における課題とその克服を目指した工夫について、たくさんのエピソードを交えてお話しいただいた。

□ 講義 II「ケースカンファレンスの運営と進行」(つくば香風寮施設長 芳賀英友氏)

施設内での職員によるディスカッションや子どもとのディスカッション、外部での他機関によるディスカッションで散見される課題についての報告と施設の運営管理の面からケースカンファレンスに期待することと課題を克服するための工夫などをお話しいただいた。「カンファレンスの目的はエンパワメントである」という視点は多くの参加者の共感を得たようだった。また、資生堂海外研修で学んだ海外での取り組み例（ファミリーグループカンファレンス）も紹介していただいた。

□ 第 42 期資生堂児童福祉海外研修報告 (発表者 42 期 中村淳平氏)

研修先であるカナダ（ブリティッシュコロンビア州）の児童福祉の現状、虐待など不適切な関わりを予防することを目的とした母子保健や乳幼児精神保健など周産期からの切れ目ない支援、奨学金や住居支援、社会的養護当事者ネットワークといった自立支援、専門性のある質の高いサービスを提供するための人材育成、行政機関から独立した子どもの権利擁護機関の活動などについて報告いただいた。

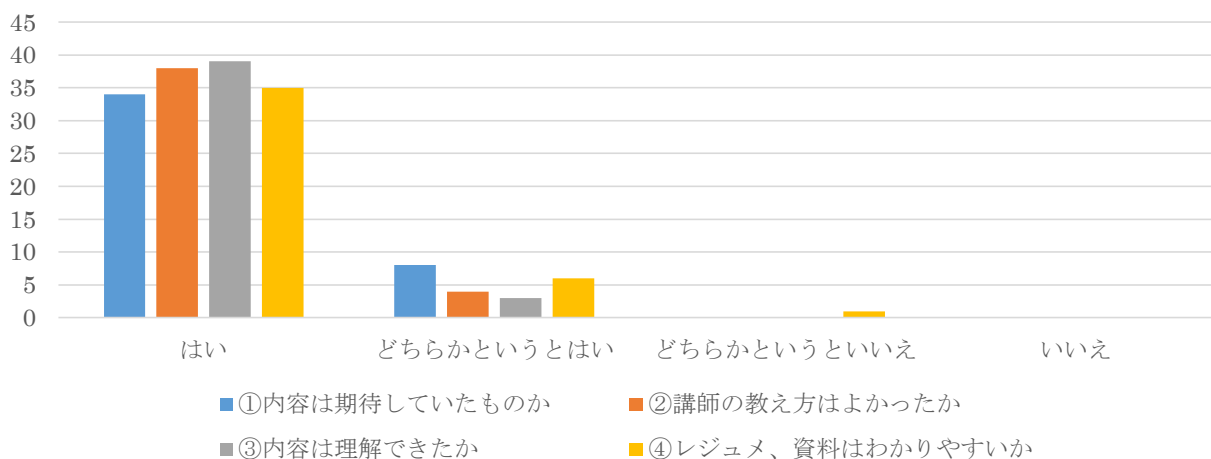
研修と実践とのつながりをテーマに企画した第2回 STARS セミナーを無事に実施することができた。第三者評価機関によるサービス評価でもその実施が求められており、現場ではよりよいケースカンファレンスに向けて試行錯誤が続けられている。そこで、ケースカンファレンスのファシリテーターの養成を通して研修と実践とのつながりを目指した。セミナー実施後のアンケート結果によると、参加者の満足度は高く、実践への活用という企画の意図も十分に理解されたようだ。さらに NPO STARS 会員である講師陣に対する評価も高かった。オープンセミナーであることから、より多くの参加者を集めるためのテーマ設定について十分に検討することが必要であろう。



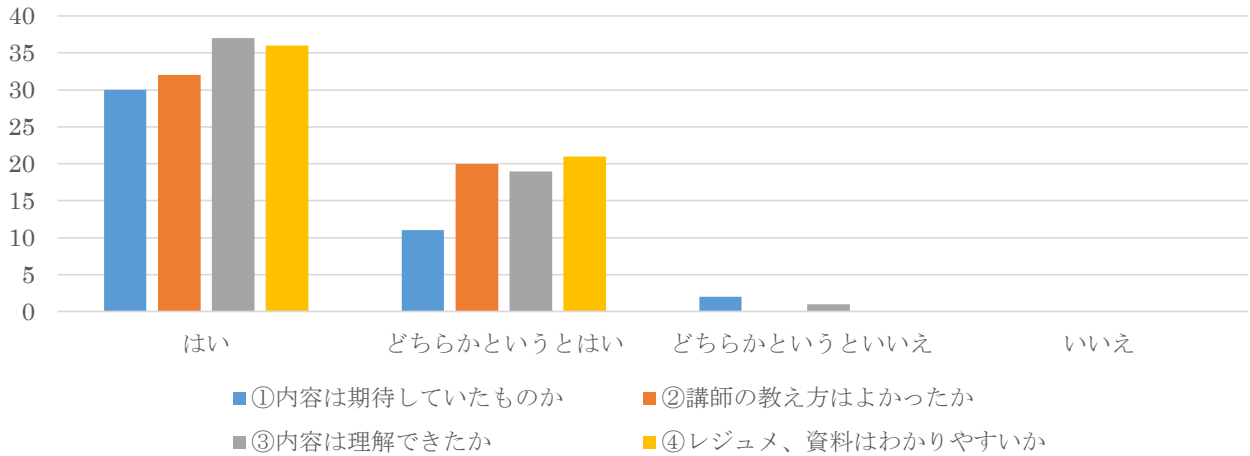
公益財団法人資生堂社会福祉事業財団主催 2017 年度資生堂児童福祉海外研修の報告は例年と異なり団員による発表だった。入念に準備されたよい発表だった。事前の準備、当日の運営は、NPO STARS の担当者はもとより、資生堂社会福祉事業財団様のご協力をいただいたことでスムーズに行えた。

アンケート用紙によるアンケート結果

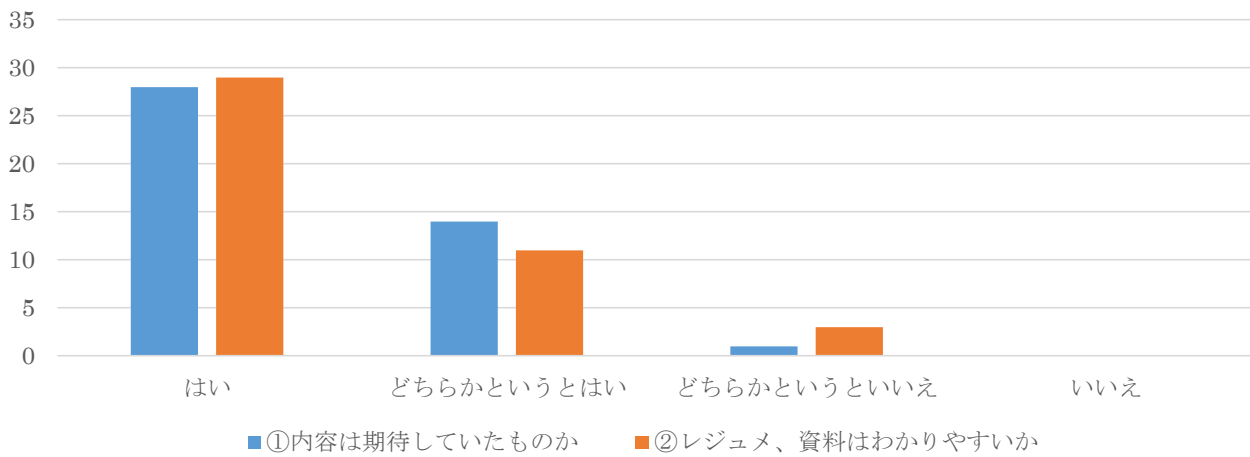
講義 I 「アセスメントとケースカンファレンス



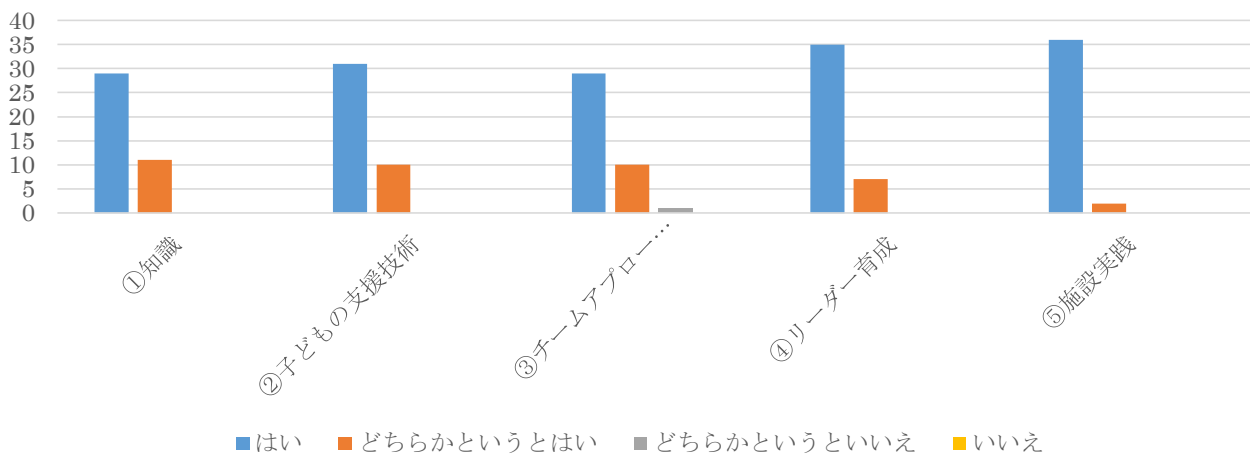
講義Ⅱ「ケースカンファレンスの運営と進行」



ワーク「ロールプレイ」



研修の効果



| | | | |
|--------------------------------|-------------|-----------------------|---------------------|
| ケースカンファレンスの実施にあたり課題や弱点と感じている項目 | 意義や目的に関する項目 | 多職種・他機関連携 チームアプローチ | |
| | | 情報と課題の共有 | ● ● ● |
| | | 支援方針の決定 | ● |
| | | 援助者の育成 | ● ● ● ● ● ● ● |
| | | 課題の発見 | |
| | | 実践の評価 | ● ● ● ● ● |
| | | より良い評価 | ● |
| | 運営や進行に関する項目 | 事前準備 | ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● |
| | | 組織の理解と共通認識 | ● ● ● ● |
| | | 言葉の定義と理解 | ● ● |
| | | 進行上のルールやマナー | ● ● ● ● ● ● |